

名古屋芸術大学グループ 35 April 2016 通信

“新”芸術学部 芸術学科 始動

大学が変わる!!
音楽×美術×デザイン
領域を越えて融合する新しい学び



BORDERLESS

MUSIC / ART / DESIGN / ARTS&CULTURE

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

きちんと“もかく”こと
権坂洙

NUA-Student

人間発達学部 子ども発達学科 4年
角田真由

News/Topics

ニュース&トピックス

大学からのお知らせ

■名古屋芸大生夢サポート募金の活動状況

音楽学部

■第43回卒業演奏会が行われました

■大学院音楽研究科

第18回 修了演奏会が行われました

■第38回 オペラ公演

「あまんじゃくとうりごひめ」、

「子供と魔法」が上演されました

■オリジナルミュージカル

「ブロードウェイの魔女たち」が上演されました

人間発達学部

■「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました

美術学部・デザイン学部

■「あいちトリエンナーレ2016」参加アーティスト、
ジョアン・モテ氏が来日! 本学学生たちと
作品制作ワークショップを行いました

■第43回 卒業制作展

—作品講評会・優秀論文発表会・映像作品上映会・
記念講演会—が行われました

大学院美術研究科・大学院デザイン研究科

■第20回 修了制作展が行われました

名古屋芸大グループ校特集

■滝子幼稚園

コラムNUA

“個”が発信するネットワーク・メディアの変革
音楽学部教養部会講師 大崎竜也

Master Artist

マスターアーティスト

好みを突き詰めて

美術学部 教授 吉本作次

Information

インフォメーション

■春のオープンキャンパス

(音楽学部・人間発達学部)が開催されました

■2016年度オープンキャンパス日程

■アート&デザインセンター

2016年度展覧会スケジュール(予定)



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部 ■名古屋芸術大学保育専門学校
美術研究科 美術学部 ■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
デザイン研究科 デザイン学部 ■滝子幼稚園 ■たきこ幼児園
人間発達学研究科 人間発達学部 ■名古屋音楽学校(名古屋芸術大学リテライト)

BORDERLESS

MUSIC / ART / DESIGN / ARTS & CULTURE

2017年度(平成29年度)から、本学はこれまでにないほどの大きな学部改編を行います。音楽学部、美術学部、デザイン学部の3学部4学科を統合し、新たに芸術学部芸術学科を設置します。これまでの学部はそれぞれ専門領域となり、音楽領域、美術領域、デザイン領域として芸術学科に置かれます。さらに、新しい専門領域である芸術教養領域が新設され、1学部1学科、4つの専門領域へと大きく変革されることとなります。ここ数年間指向してきた、専門性をクロスさせシナジー効果を発揮する、

2016年度(平成28年度)

音楽学部

- 演奏学科
- 音楽文化創造学科

美術学部

- 美術学科

デザイン学部

- デザイン学科

人間発達学部

- 子ども発達学科

新学部の設置

3学部4学科から1学部1学科へ改変

芸術学部学生は以下のような能力の修得を目指します。

- ①音楽・美術・デザインに関する専門的知識・技能の修得
- ②音楽・美術・デザインを融合的・横断的に捉え、新たな価値を創造するための基礎的能力の修得
- ③社会で不可欠なコミュニケーション力を身につけ、問題を発見・解決するための能力の修得

新・芸術力 × 将来力

- 「音楽」「美術」「デザイン」の専門力を身につける。プラス「芸術教養」の各領域を融合的・横断的に捉え、新たな価値を創造する総合力を獲得する。
- 社会で必要不可欠な幅広い知識とコミュニケーション力、問題を発見・解決する力を習得する。
- 音楽・美術・工芸の教員免許など、芸術分野の免許・資格の取得を目指す。
- 卒業後、多彩な職業に就いて現場で活躍できる新しいタイプのクリエイターを育成する。

芸術教養

音楽

大学が変わる!! 音楽×美術×デザイン 領域を越えて融合する新しい学び



“新”芸術学部 芸術学科 始動

ということを大きく前に進めることは予想できますが、これまで培ってきた専門性を薄めてしまうことにはならないか? 新たな芸術教養領域とはどんなことをする領域なの?? 実際のカリキュラムはどうなるの?? 疑問はつきません。そこで今回は、2017年度の大学改編に向けてどんなことが進んでいるのか担当する先生方にお話を伺いました。

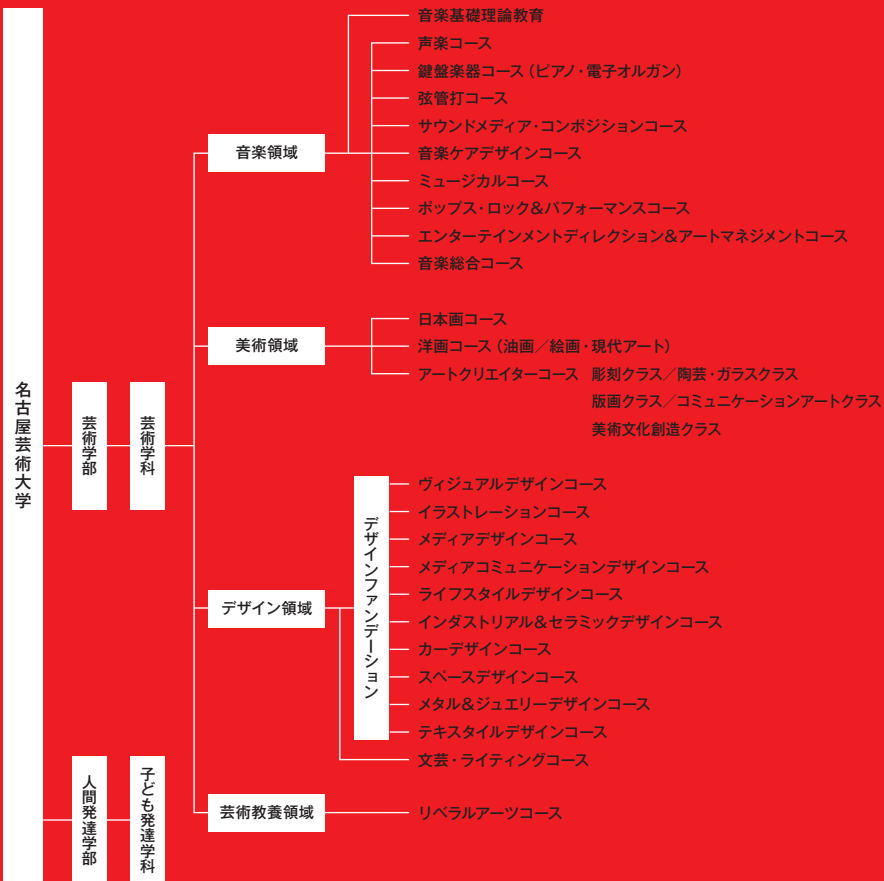
2017年度(平成29年度)

芸術学部 芸術学科 **NEW**

- 音楽領域
- 美術領域
- デザイン領域
- 芸術教養領域 **NEW**

人間発達
学部

- 子ども発達学科



● 芸術学部 芸術学科のカリキュラム

科目分類	
全学総合 共通科目	一般科目群
	横断科目群
専門科目	専門共通
	領域共通
	領域展開

● 横断的にさまざまな領域の科目を受講 **NEW**

目的	科目名
音楽を知る	西洋音楽史各論、ポップスミュージックシーン、ロックミュージックシーン、舞台芸術概論 他
美術を知る	美術文化各論1. 2. 3. 4、美学、美術解剖学
デザインを知る	エコロジーとバリアフリー、認知科学、デザインと文化1. 2. 3. 4、ソーシャルデザイン論
子どもを知る	児童文学論、教育の思想と歴史、子どもの発達と芸術、生活と福祉 他
広い視野を持つ	人類生存のための教養、文化史、国際社会論、論理的思考 他
グループワーク力をつける	アート・プロジェクト1(映像とサウンド) アート・プロジェクト2(絵本作成・リーディングと演奏)

美術

デザイン



大学が何を為すべきか 名古屋芸術大学だからできる 改革を



ボーダーレスの時代に対応する

- 改編の背景についてどのようにお考えですか？

本学は、1970年創立ですので、今年度で開学46年目です。当時も音楽と美術という2つの学部、芸術系学部というのは全国でも初めてだったのではないかと思います。そういう中で46年間歩んできましたが、社会の変化のスピードが予想以上に速く、しかも大きく変化してきました。そういう中で教育の中身をもう一度考え直し、次のステップに行くためにはどうすればいいか。常に考えてきました。残念ながら、学内の組織というものはそれほど柔軟なものではなく、それぞれの領域で素晴らしい発想があったとしても、その領域の専攻のみに考えが狭くなりがちな面があります。ここ数年、相乗的な発展を狙った改編を進めてきましたが、もう一つ、全体的な動きになっていかないとかがあります。

社会、政治経済をはじめとしてすべての分野においてボーダーレス化が進んでいるのが現在だと思います。翻って大学を見ますと、美術学部美術学科、デザイン学部デザイン学科、音楽学部音楽学科、と縦割りです。領域の境目に対して融通が利きにくい形になっています。でも、社会を見ますと実際には美術をやっているが音楽的な素養も求められる場合もありますし、その逆もあります。まさに芸術が境目のない

ボーダーレスの時代になっているわけです。それに対応するために本学の枠組みを一度考え直して芸術全般でやっということのがそもそもの発端です。そして、その改革が大学の永続的な発展に寄与することであると思っています。

専門性をより進化、深化させる 基礎教養

- 芸術学部にとめる目的はどんなところにあるのでしょうか？

これまで専門教育をやってきた大学ですが、専門をより発展させるためにしっかりとされた教養的な土台が必要です。もちろん今までも教養科目というものが、数年前には全学共通教養科目を設置して強化に取り組んできました。しかし、学内の体制がまだ十分だったとはいえ、実際に見てみますと期待するほど機能していない状態でした。それをもう一度リセットし、美術、デザイン、音楽を3つの領域にし、もう一つ芸術教養「リベラルアーツ」を設置して、4つの領域として改めて展開を図っていこうと考えました。

共通科目を設けるといってなかなか理解されにくいのですが、これまで培ってきた専門性をより磨いていくための改革です。専門性をより深化させるために基礎的部分を4つの領域共通でやっということということが目的です。それに

よって今の時代が求める人材を送り出していいのではないかと思います。

芸術的な感性が求められる

- 教養科目に力を入れ、また、芸術教養領域が新たに設置されます。今、なぜ教養重視なのでしょう？

一般大学の中に芸術教育を取り入れている大学が、受験者の人気を集めたり、あるいは社会に出て求められている人材として高く評価されてきています。一般大学の流れとして、一般教養の中に芸術科目が入っている大学が増えてきています。なぜ芸術系科目が取り入れられているのかといえば、社会に出たときに芸術的な感性というものから従来よりも強く求められるようになってきているようです。芸術系科目が大学教育の中では欠かせないと従来よりも強く考えられているようで、一般教養の中にその部分を膨らませていくということが現在行われています。本学の場合はちょうどその逆方向で、専門教育の方からそういう方向へ歩み寄っていこうと考えました。それによって大学教育の質の充実、もちろん卒業後のことも見据えて、今回の「融合と再編」を実施します。

表現方法がことなるだけで、 芸術は一つでは

名古屋芸術大学 学長
竹本義明

-改編で、学生のニーズに大学がしっかりと対応できるようにするというのでしょうか？

最近の傾向としては、大学に入っても目的意識が希薄であるということがあります。専門大学ですが、何をやりたいかがはっきりしないまま入学する学生が数多くいます。4年生になってようやく自分の方向性がわかってくるような、そういった事象が見受けられます。それを無理やり従来のように専門大学に入ってきているので目的意識がはっきりしているだろうと、そのための教育を施すというだけでは、うまくいかなくて当然です。

また、一方で専門大学ですので入学した時点で技術的なことについて学生ごとに差があります。そこで、差が埋められないとあきらめてしまう学生がいます。そういった学生たちにきちんと目を向けて、4年間の大学生活をしっかりと構築していかねればいけないと思います。新たな目的や才能を見つけ、そこを伸ばしていく必要があります。いろいろなことをやってみたい、自分のやりたいことが見つからないという学生のニーズに対しては、音楽では音楽総合コース、美術ではアートクリエイターコースを設置してきました。それぞれ派手さはないのですが、卒業生は自分の活躍の場所を見つけて巣立っていています。成功している例なのではないかと思っています。その流れに棹さすというわけではないのですが、美術、デザインを

やっている人の中にも音楽にすごく興味があったり、実際に活動していたり、そういう学生もたくさんいます。逆に音楽の方でも美術に興味があったりデザインに興味があったりする学生がいます。本学の場合ですと、領域を超えて総合的に学ぶことができるようになります。芸術というものは、領域に細分化されている部分もありますが、表現方法が違うだけで芸術は一つだと思っんですね。

感性を広げてこそ技術が生きる

-学長ご自身が演奏家でもあります。美術の素養が必要と考えることもありますか？

私自身、自分で描くことはありませんが、美術が好きです。意外と、演奏家として活躍されている方のお話を伺ったり、書きものを拝見させていただいたりしていると、芸術全般についての造詣が非常に深い方が多いです。音楽をやる、演奏するという技術に留まっているわけではないのですね。磨いてきた技術に、どうやって感性あるいは創造性を生かして色を付けていくか。美術館に行ったり、さまざまな芸術に接して、それが総合的にその技術を花開かせる。そういうことをそれぞれがやられています。

音を説明するにしても「この音はもう少し悲しい感じに」とか、そのような表現の仕方をします。音を表すときに色で表現したりする場合

もあります。根底ではつながるようなところがあるのではないかと思います。活躍されている音楽家の方でも、美術が好きなのはたくさんいらっしゃいますし、自ら絵を描いたりスケッチしたり文章を書いたりいろいろな方がいます。ただ一つの分野に深く入りこんでいくというのは、ただ技術を学んでいるのであって、それを行っているだけでは芸術家とはいえないのではないのでしょうか。逆にいえば、技術が不完全であったとしても、感性を広げることによって、芸術家としては成り立つ場合もあると思います。

名古屋芸術大学だからこそできる！

-大きな大学改革です。学生にとっても先生方にとっても戸惑うこともあるかと思いますが。

古い先生や卒業生に聞きますと、本学が始まった頃、音楽と美術で発足した頃ですね、現在よりももっと交流があったといいます。お互いにパートナーとして結婚するような学生も何組もあったそうです(笑)。その頃は、校舎は離れていますが境目はなかったんです。本学には、もともと自由な校風がありますから、それをうまく生かしていけばいいのではないかと考えています。本学だからこそできる、そういう改革であると信じています。

芸術大学としての 専門性 × 学士課程教育充実 2つの目標

-この改編の背景について教えてください。

津田：この改革の発端から申し上げますと、起点は、学長が「芸術大学であることをしっかり担保しながら、学士課程教育の充実を努めよ」と方針を出したことです。学士課程教育の充実については文部科学省の「学士課程教育の構築に向けて」という答申にも書かれておりますが、これを改革のベースに置き、芸術大学という枠組みが活用できる改革案を作ることになりました。その結果、次の2つのプランを推進していくことが重要だと考えました。

第一には音楽、美術、デザイン、人間発達の全ての領域の特性を活かし、学生が幅広い知見を得られるよう、「全学総合共通科目」を改編することです。過去においてもカリキュラム改革の中で全学共通科目を設置し、少しずつ領域間の融合を進め、互いの長所を一層伸ばしてきましたが、それを学士課程教育充実という側面と、領域間の融合という視点から捉え直し、より押し進めようと考えました。文部科学省の「学士課程教育の構築に向けて」の中では、学士力に関する主な内容として「総合的な学習経験」であるとか、「創造的思考力」といった能力の開発があげられており、このあたりは芸術大学の環境、カリキュラム、授業運営のスタイルと非常に親和性が高いのです。また現在の3学部を1学部再編するとはいえ、それらの専門性の追究を落とすわけにはいきません。そうではなく、専門性をより高め、新しいアート・デザイン・音楽の世界を開拓できる学生を育成するため、芸術大学の強みを生かしながら、全学総合共通科目の中で、新たな学びの場を造ることとしました。例えば「アート・プロジェクト」などの領域融合的でプロジェクト型の授業を新規に追加しました。学生は、他の芸術的感性と技芸を持つ教員や学生と刺激し合うことにより、広い視野を獲得するだろう、ということがこの新規科目のねらいです。

第二には「芸術教養領域」を創設しました。今回発足する新芸術学部の中に「美術領域」、「デザイン領域」、「音楽領域」の各領域に加えて、新たに「芸術教養領域」が創設されることとなります。1学年が25名程度の定員を考えておまして、規模は小さいのですが、この領域から輩出される卒業生が、大学と大学を取り巻く社会との関係を変えていくのではないかと、またそのような起爆剤になってくれるのではないかと考えております。

社会の要請に柔軟に迅速に 対応できる枠組み

-学部を一つにまとめることにどんな意味があるのでしょうか？

萩原：芸術的な構想力とそれを実現する力、想像力、観察力は、実はもっと広く社会のいろいろな場面で必要とされており、そのことの重要性がますます高まっています。こうしたことをその専門教育機関である本学もはっきりと自覚して、芸術大学がもっと責任を持って、それぞれの専門技芸の持つ力を社会で力強く発揮していける卒業生を一人でも多く育てることが私たちのこれまでの願いであり、これからも変わりません。つまり、今後も本学は、専門の技芸を追求し、その道のプロフェッショナルを養成するという使命を変わず追求します。ただし、今回の改革で新たに構想していることは、さらなる



専門性と教養、 社会が必要とする クリエイターを育成

語学力の強化をし、情報発信力や異文化理解のための科目の充実によって、自身の専門的能力を社会で生かすための土台となる、社会人としての素養を担保するカリキュラムを設けることです。これにより自身を的確にプレゼンテーションし、そこでその能力の価値が認められ、異なる専門性や文化的背景を持つ人々とも協働して活躍できる力を持った人材をより多く育成できると確信しています。そのことが実現、継続されれば、従来の単科大学的に専門を並べる芸術大学のかたちを超えた、新しい価値を生み出す総合芸術教育研究機関として、他の多くの芸術大学に先駆けてその立ち位置を確立させることができるでしょう。

本改編では、従来からの芸術系教育機関の卒業生としての生き方の選択肢をさらに広げ、社会の中で芸術的技能や知識を還元できる場をさらに増やすことを目指します。芸術的専門技能を持った人材が加わることで、そこに新たな価値を生み出す可能性を持った場はまだこの社会にたくさんあります。そういう新しい芸術大学の姿を目指します。そこでこれを達成するにはどうすれば良いかと考えると、従来、1つの大学で複数の専門分野の教育を行いつつも、それがしばしば他分野と没交渉的、縦割的になりがちであった教育慣習の構造に問題があります。その構造自体を変えていかなければ、そうした新たな学際的活性は望めません。そこで既存の学部を一つにまとめた大改編という選択肢があがってくるわけです。これまで通りの専門性を3学科に再配置するという選択肢もあるという意見も一方ではあります。しかしながら、学科で専門性を分かつことは、従来学部で切り分けていた時との制度的、機能的条件に大きな変化は期待できません。1学科の下に、従来の音楽、美術、デザインを置き、芸術教養領域を加え、それらを並列配置することで、専門領域間のカリキュラムを相互に影響させることができます。芸術教養領域は、後で津田先生が詳しく説明しますが、総合大学に設置された、芸術的な素養や作法を取り込むことで成果を上げてきた非実技系教育に近いもので、芸術教養教育の拠点ともいえるべきものです。これは実技系の3領域と並置することで

互いに相乗効果をもたらすと考えています。これら4領域が影響を与え合うことで、新たな基盤もでき、学際的な活性化も、柔軟な思考や試行錯誤で新しいアートの地平を開拓することも期待できるでしょう。

この改編手法のいま一つのメリットは、時代の変化や、社会のニーズの変化に応じて、柔軟にしかも迅速に対応できる枠組みを本学が手にできることです。これで教育機関として柔軟かつ素早く動けるようになります。既に経済の停滞や人口減少、グローバル化といった激しい社会の変化が進展しており、大学を取り巻く状況は、全体的に厳しくなっています。どの大学であっても従来からの教育資産・慣習の維持だけで生き残ることは難しいのです。社会がこの先もどう進んでいくのかはなかなか予想できませんが、仮にもっと厳しい状況におかれた場合でも、大学がその条件に応じて的確に舵を切っていけるようなツールを持つ、それが1学科にするいま一つの切実な理由です。この1学部1学科化は、本学の既存の専門教育資産を学際的に活性化することで、高い人材輩出力への期待と、組織体としての柔軟性、合理性、機動性を持ったものに生まれ変わるという2つの目的があります。この改編により、本学が社会からその存続の意味をはっきりと認められるような大学としての新たなスタートが切れると考えています。

社会が求める新しい学びの場を 新たに加える

-芸術教養領域とはどんな領域になるのでしょうか？

津田：領域名として「芸術教養」としましたが、その中に設置するコースは「リベラルアーツコース」という名称です。つまり1領域に1コースというミニマムな構成です。現代における国内外の大学教育の在り方が、どのように変化してきたのかを調べてみますと、新しいタイプのリベラルアーツ領域と呼ぶべきコースや学部、学科を作っている大学が非常に多いことがわかりました。芸術大学の中に「リベラルアーツコース」を置く例はまだあまりありませんが、昨今の一般大学では、そういうものが非常に

改革準備室、 担当教授 2人に聞く



副学長
デザイン学部教授
津田佳紀



改革準備室長
学長補佐
デザイン学部教授
萩原 周

たくさん生まれています。それは、戦後日本の各大学に作られた教養学部的なりべらルアーツとは異なり、学際系リベラルアーツ（もしくは領域横断型リベラルアーツ）と呼ばれており、昔のものとは区別されています。学際とはインターディシプリンとも言います。多様な分野の専門知識や経験が必要な課題を研究する際、さまざまな領域の学者や技術者が協力し合うことを意味しています。研究の場でのインターディシプリンというのは1970年代から盛んに行われていますが、日本の教育の場では十分に取入れられることはありませんでした。不思議なことに日本では、クールジャパンなどと言って海外から賞賛されているようなコンピューターや産業のイノベーションには非常に関心が高いのですが、教育のイノベーションというものについては、そこまで目覚ましくは進んでおりません。一方、現在、学際系リベラルアーツコースが各大学に増えてきている理由を考えれば、社会からの要請があるからこそでしょう。だからこそ、そのような学部やコースに多くの学生が来ているわけです。一般的に言うと社会からの要請すなわち産業界からの要請と捉えがちですが、それだけではありません。例えば、コミュニティ内の高齢化の問題であったり、格差の問題であったり、環境の問題であったりと、社会の中の様々な問題の解決が求められています。こうした問題を解決する人は、従来の大学教育では輩出されにくいので、社会は新しいタイプの学際系リベラルアーツのような領域の学びを求めていると言えるわけです。このことを踏まえた上で、芸術大学であり、且つ人間発達学部を擁している本学のユニークな基盤に加える形で、「芸術教養」という学際的リベラルアーツの学びの場を設立することが重要で、これが今回の改革の基本的な趣旨となります。あくまでも芸術大学としての専門的な部分は変えず、その機能は担保された上に、芸術教養領域を新設する、という趣旨をご理解いただきたいのです。

領域を越えた コラボレーションも可能に

津田：芸術大学ということを背景にしながら学際的

な学びの場を作る、これが重要だと考えています。高大連携の新たな改革により、現在の中学校1年生から初等教育、中等教育も新しく変わってきています。変わりつつある教育環境の中で、新しい能力を持った人を教育していく時代に大学もなったのです。芸術大学の中に学際的な学びの場を作るという意味でも、新たな始まりになるかと思えます。また、この場を作ることで、音楽、美術、デザイン、人間発達に対して与える良い影響もあるでしょう。先に述べた「全学総合共通科目」のことだけではなく、様々な分野を志す学生が芸術大学という通常の大学では得難い環境の中で、日々共に勉強し、同じ場を共有することで影響を与え合うことは、現在本学で行われている幾つかのイベントや課外活動を鑑みると、十分に考えられます。もちろん授業内外で、学生、教員の直接的なコラボレーションもいま以上に発生してくるでしょう。このように、学部内の領域を超えた、あるいは学部を越えたコラボレーションも含めて、従来の境界を越えて学び合うことを可能にする核としても芸術教養領域を作りたいのです。現在のところ、他の芸術大学も、そのような取り組みは開始していません。名古屋芸術大学が長期にわたり培ってきた多様な原資をもとに、本学が先んじて社会が必要とするクリエイターやジェネラリストを養成する場を作っていくことが大切でしょう。

広く現代社会で活躍する ジェネラリストを育成

-芸術教養領域では具体的にどんなことが学べるのでしょうか？

津田：本学の芸術や文化にかかわる教育環境を背景に、今日必要とされる5つのリテラシーを学びます。まずは、ボーダーレス化する社会の中でのコミュニケーション力を向上させるために英語リテラシーと日本語リテラシーを学びます。外国語の修得は異文化社会と接触する為の必須項目であり、また正確な日本語の修得はものごとを論理的に考え、伝える方法として役立ちます。更に、Webをはじめとする電子的なネットワーク社会で活動する為に、情報リテラシーを学びます。情報を集め、それらを精査し

ながら選別する情報収集能力と、自ら情報を発信する能力を磨いていきます。また芸術大学の教育資源をフルに活用して、ビジュアル・リテラシーとサウンド・リテラシーも学びます。過去においては映像や音声を利用したコミュニケーションはプロフェッショナルによるものが主流でしたが、現在では機器の発達を背景に一般の人々が映像やサウンドを言語等と同じレベルで扱うようになりました。現代では映像と音を駆使するコミュニケーションが一般的な能力として社会で必要とされています。高学年では、これらのリテラシーを基盤とし、社会の中で実際のプロジェクトをおこなったり、インターンシップや海外の異文化等を体験したりして、柔軟に社会と関わることを学びます。また卒業研究においては、少人数の演習授業の中で学生各自が自らの研究テーマを見つけて、それについて掘り下げます。ここでは視覚文化をはじめとする社会と文化に関する多様なテーマが想定されています。これらのカリキュラムをとおして、広く現代社会において活躍できるジェネラリストの養成をめざします。

新しいカリキュラムで 自己実現の可能性を広げる

萩原：芸術の素養を持って卒業していく人たちは、その専門技芸の習得の内に培われた、一般の総合大学を出た人とは違ったものの見方や観察力を持っています。そして、そうした能力を社会の中で存分に発揮し、その価値が認められ、活躍している人が既にたくさんいます。また例えば企業に入らなくても、地域のコミュニティの中で、あるいはまた子どもの教育に関連する組織で、発想力と実行力豊かなリーダーとして頼りにされたりする話もよく耳にします。芸術系専門職とは異なる職を得ても、その傍らで音楽や美術を生活に取り込んで豊かな日常を生きる人も多数おります。こうした、一般の大学で獲得するものとは異なるタイプの能力は社会からも必要とされていますし、また自らの生を豊かに生きる能力も重要なのです。こうした能力を得られるような教育課程を大学としてきちんと提供し続けることが大切です。また、例えばデザイナーという職を得た人々には、芸術的な総合知を持って、これまでよりもっと高いレベルで活躍できるようになって欲しい。他の専門領域でも、さまざまな領域の技能と素養をベースに、高いコミュニケーション能力を持って自己の立場を堅牢で持続性が約束されるようになって欲しいと考えています。芸術大学に入ってくる学生は、自分の道はこれだと決め、堅い覚悟の上で入ってくる場合もありますが、そうではなくデザインが専門でも音楽にも関心が高くそれを実践している人たちもいますし、いま一つの学部である人間発達学部で教育者を目指す中でも、デザインへの関心が高く、機会があればその門も潜りたい人もいます。音楽でも、表現方法の異なる美術に興味のある人がたくさんいます。そういった人たちの潜在的な関心と言いますか、良い意味での自分に対しての往生際の悪さ(笑)、みたいなこともこのカリキュラムの特徴を活かして、その中で自己実現していけるようになっていけば良いのではと考えています。こうした本学の新たな特色を持った教育環境の存在を広く社会に発信することで、従来型の非常に強い覚悟を持って芸術大学に入ってくる生粋の芸大志向の人たちにプラスして、私たちの教育に新たに興味を持って出願の判断をしてくれる、新しいタイプの人たちが増えるに違いないと確信しています。(敬称省略)

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



Vol.71 NUA-OB 権坂 洸

(クワンパンス)
トヨタ自動車株式会社
デザイン本部
トヨタデザイン部主任



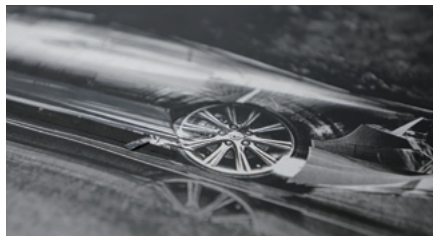
レクサス公式動画
RC開発ストーリーに、
スケッチを描く権さん
が出演。「ほんの一
瞬だけですよ(笑)」

- 1972年 韓国大田(デジョン)生まれ
- 1987年 地元工業高校通信科卒業
- 1990年 デジョン実業専門学校 産業デザイン学科入学
- 1992年 国立ソウル科学技術大学工業デザイン科3年編入
- 1992~94年 兵役
- 1996年 国立ソウル科学技術大学工業デザイン科卒業
10月 来日、日本語学校に在学
- 1997年 名古屋芸術大学美術学科工業デザイン専攻修士
課程入学
- 1999年 名古屋芸術大学美術学科工業デザイン専攻修士
課程修了
トヨタ自動車入社(デザイン部では初の外国人)
トヨタデザイン部に所属、主に外形デザインを担当
レクサスデザイン部に異動
- 2008年 トヨタデザイン部に異動
- 2014年 トヨタデザイン部に異動

- 手がけた作品
1999~2008年
初代AYGO、ハイランダー(マイナーチェンジ)、アベンシス、ランドクルーザープラド、オリス(内装デザイン)など
- 2008~14年
レクサスES、RC、先行LS、LC500
- 2015年
クラウンアスリート、ロイヤル(マイナーチェンジ)
- 数年に渡り、春期実習外形デザイン講師、デザインセミナー外形デザイン講師を担当

きちんと“もがく”こと

「社内では、皆、あまりポートフォリオは作ってないんですよ……」と少々照れたふうに差し出した2冊のポートフォリオ。開いて見ると、エッジの効いた流線型のスケッチが現れた。「レクサスのES(日本未発売、トヨタ ウィンダム後継モデルにあたり、アメリカではレクサスの主力商品)とクーペのRCです。この2台は、最初から最後までやらせてもらいました。ESをやった、その後、RCをやりました。ESの仕事があってRCのチャンスが回ってきたような気がします」 ESの最初のスケッチは、広い大地を疾走する抽象的なイメージ画だ。ページをめくると他のスケッチとは一線を画す異物が目に飛び込んできた。「この時は普段とは違う手法を採りまして、最初から手で描くのではなく、カラーズで攻めました。1枚に見えますけどたくさん貼り合わせてあるんです。長年やっている人それぞれ癖を持つんですね、癖というのは一定のクオリティを出してくれるのですが、新しいチャレンジをしようとすると邪魔になります。それを突破したくてあえて缺でスケッチをやったつもりなんですよ」



現役デザイナーのほれほれするようなポートフォリオにも、当たり前だが産みの苦しみがにじみ出る。自動車のデザインとなれば、数十人、場合によっては数百人のデザイナーが分業であたるという。レクサスの場合は、仕事のやり方が違うのが聞いてみた。「基本的にはトヨタもレクサスもそれほど違いはないですが、レクサスの場合は、少人数のチームで企画の最初から最後の製品化までやっているという感じです。ESもRCも、たまたま僕のアイデアが採用されたので全



部見ることになりました。なぜだか、恵まれたと思いますよ」 ESの場合でいえば、チームに外形のデザイナーは4人。そこでアイデアを出し合い1つのアイデアに絞り、さらにトヨタのカリフォルニアにあるデザイン拠点、キャルティデザインリサーチ社から出された案とのコンペに勝ち抜いて選ばれたという。いい作品しか残ることのできない厳しい競争の世界だ。勝ち残って来られたのはどんなことが評価されたのだろうか。「『素』の美しさであると思います。車両に動きのある勢いを与えるため沢山のキャラクター線を加え表現した対抗案に対し、私は当時これ以上そぎ落とせないほどまで『素』の美を追究しました。その点がプレミアム世界感の表現とマッチし、評価されたと思います」



子どもの頃は画家になりたかったというが、一旦は工業高校の別の科に進学。それでもデザインの仕事に興味があり勉強し直してデザイン科の大学へ入り、感性工学を深く知りたいと東奔西走するうちに来日、本学の大学院に入学することになる。「大学を卒業し就職するまでに、半年間、日本を体験してきました。半年で帰るつもりが欲が出て、図書館へ

いって感性工学の本を読み、どうしようかと悩んでいました。そんな時、名古屋芸術大学を知りまして、不躰ですが、私はこういうことがやりたいけどもそちらの大学ではこのことはできるのか、と手紙を書きました。時間がなかったのでストレートに書きましたよ」 自分のやりたいことをはっきりと表明し、周りを動かしていくのは、学生時代も仕事に就いてからも変わらぬようだ。「大学時代は、冒険、トライ&エラー、目標、出会い……。そもそも気楽に来た日本ではあったんですが、帰れなくなりました。修士課程ということもあってカリキュラムが少なく時間が取れました。それで、とことんその世界を掘りまくりましたね」 自分にとって必要なこと、やりたいことに向かって真っ直ぐに進んで行く姿勢が鮮明だ。

学生たちにアドバイスを求めると「もがく」ときはきちんと“もがく”ことですね。自分のどういうところに弱みがあって、どういうところが好きなんだということも自分が知っているはずなので、自問自答しながら自分は何がしたいんだとよく考えること。僕は、目標のことを夢とっています。夢というのは、苦難の向こう側にあるもので、苦難を乗り越えれば必ず存在するもの、実在するものが夢なんだと思うんです。そういう考え方が非常にモチベーションにつながります。目標を定めたら迷わないこと、純粋な心で試行錯誤して欲しいですね」 実習の講師を務めていた立場から、学生のポートフォリオをたくさん見てきた。本学について伺えば、決して低くはないがもう一踏ん張り欲しい、とのこと。「自分が持っているイメージがはっきりすればするほど、それを表現したくなるはずなんです。自分の考えはこうですよと知らせてくたしてやがなくなる。そうになると、いろんな方法を駆使してもがきながら描くはずなんです。その具体化がもう少し足りないのではないのでしょうか。もう一つ乗り越えればいいんじゃないかと思えますよ」 産みの苦しみにしっかり向き合いやり遂げると、励ましてくれた。

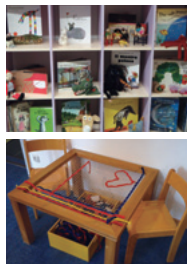
憧れの先生に近づきたい



Vol.72
NUA-Student
角田真由
(つのだ まゆ)
人間発達学部
子ども発達学科 4年



「保育園時代、引っ込み思案の私に気づいてくれて、よく声をかけてくれた先生に憧れました」



小さい頃からピアノを続けている「母がピアノの先生なんです」



サークルは
中音部
ベースを担当



一人間発達学部だと先生だね。資格はどれを取ろうと思っているの？ 3つとも？

はい、保育士と幼稚園教諭免許と小学校教諭免許の3つ取ります。2年生の後期から3年生になる時が一番忙しかったかなと思いますね。専門科目がたくさんあって、一般教養が必要な分、取れない！みたいな感じです(笑)。私、いっぱい一般教養がたまってるんです。たくさん取らなきゃ卒業できない！

一般教養だと、共通科目で西キャンパスに行ったりすることも？

あります。でもそれほど、いくつか分野があるのですが、その分野ごとに2、3ずつって感じですので、前期後期で分散させたらいい感じかなって……

ギリギリじゃない！

そんなことないですよ(笑)。今のところ「フル単」です！

3つとも免許を取るけど、何になりたい？

保育士です。自分が保育園の時に、保育園の時から先生になりたい、なりたい、といってるんですけど、すごく好きな先生がいて『その先生みたいになりたい』と思っていました。高校生になってもっと現実的に考えて、小さな頃からずっとピアノを続けてきているんですが、子どもが好きですしピアノも生かせる保育士がいいなと。やっぱり保育士になろうと決めました。

小さな頃からの憧れなんだ。一途だね

いろいろ気持ちが変わりがちで、他にも興味はあったんですけど、だけど、なぜだかやっぱり戻って来ちゃうんです。それほどやっぱり先生の影響が大きかったのかなと思います。今でも鮮明に覚えていたりしますね。その先生とは、今は交流がないんですけども、とても印象的でその先生のようになりたいと思っています。

そんなに素敵な先生だったんだ

私が覚えているのは、先生の笑顔ですね。私、小さい頃は、人見知り知らずと人と話すぐころか、保育園

で作ったものも先生に提出できないような引っ込み思案の子もだったんです。だけど、そういう自分に先生は気づいてくれて、よく声をかけてくれました。そういう安心感のある、やさしい先生でした。それが、たぶん自分の中ではとてもよかったんです。コミ障の私を助けてくれました(笑)

それなら、もう小学校免許を取らなくてもいいくらいじゃない。一般教養、頑張って取ろうよ

ダメですよ！ 3つ免許があることで有利なんじゃないかなって思っています。保育の現場入って年長さんの担任の先生になるかもしれないじゃないですか。そうなった時少しは小学校のこともわかってなきゃと思うんです。だから免許のためというよりは、小学校に向けての連携ができるように、そのために勉強しているということもあるんですよ。他の短大の子や専門学校の子は、小学校のことは少し触れる程度にしかやらないと思うんですよ、ガッツリ小学校のことを勉強できるということもこの大学に入った理由の1つなんですよ。

大学はよく調べて決めたの？

じつは、他の大学のオープンキャンパスに行っている大きな大学も見ましたが、名芸のアットホームな雰囲気と音楽学部があって近くに音楽があるのがいいなと、決めました。高校時代に吹奏楽部に入っていたり、今もサークル活動でバンドを組んだりして、それがすごくいいなと思っています。それから、ヨーロッパ研修があるというのを聞いて、魅力的だなと。ヨーロッパは幼児教育が発達しているというのも聞いていましたし、そういうものに興味があるなと思って、まあ単純にヨーロッパに行けるというのもあるんですけど(笑)

研修はもう行ったの？

2年生の時ですね。2年生の春休みです。イタリアとスイスとドイツです。2週間行ってきました。スイスではシュタイナー教育をやっている学校を見せていただきました。まだ2年生だったので、しっかりよくわ

かったかというそうじゃなかったと思うんですけど、日本とは全然違うなと思いました。印象的だったのは、今だとモンスターペアレントとかあるじゃないですか、向こうは自分の園の理念に同意できない人は別のところに行って下さいと、すごく強いんです。衝撃を受けましたね。音楽療法とかも実際に見に行ったりしているんな話を聞いて、後々わかってくるといえることが増えてきますね。

学校生活でよかったなあと思うことはどんなこと？

雰囲気がいいですね。オープンキャンパスの時にも感じましたが、先生や先輩としゃべっていても皆さんとっても気さくなんです。初めて会ってはすなのに、初めての感じがしない、すぐにこの空間に入り込める雰囲気があります。人間発達は1学年130人くらいだと思うんですけど、皆と仲がいいみたいな、おはよう、おはよう……、みたいな感じで、通りすがりのみんなが知り合いみたいな感じです(笑) サークルをやってるということもあるんですけど、音楽学部にも知ってる人がいっぱいできましたし、オープンキャンパスのスタッフをやっていることで西キャンパスにも知り合いができました。すごく人脈が広がりました。



大学からのお知らせ
**名古屋芸大生
 夢サポート募金の活動状況**

本学は、「学生のため」の視点
 を重要視し、2013年（平成25年）

4月から「名古屋芸大生 夢サポ
 ート募金」を開始、同年6月から専
 用のホームページを開設いたしま
 した。3年目となる2015（平成
 27）年度において募金のご支援を
 依頼しましたところ、次のご支援

をいただきましたので、その状況
 をお知らせします。

本募金は、学生一人ひとりが持
 つ夢とその可能性を引き出し、多
 様な社会環境の中で自信と誇りを
 持って、志高く社会で活躍できる

ことを願い、6項目の中から使途
 を指定して寄附をすることができ
 る募金制度です。

今後ともご支援ご協力を賜りま
 すようお願い申し上げます。

- 1) 募集期間 2015（平成27）年4月1日～2016（平成28）年3月31日
 2) 寄附合計金額 935,000円
 3) 使途別状況（2016（平成28）年3月31日現在）

寄附金の使途	2015(平成27)年度 寄附金額	前年 積立金額	使用金額	使用方法等
1 学生に対する奨学金	60,000	0	60,000	昨年に引き続き、保護者の急変により学費支弁を継続することが極めて困難になった学生の修学を支援する「緊急奨学金」の一部として活用させていただきました。
2 音楽活動支援事業	60,000	200,000	0	「制作活動支援事業」として、デザイン学部カーデザインコース新設に伴う学生によるカーデザイン及びモデル制作、同作品の発表会、現役プロデザイナーによる実技講習指導、特別講義等事業の一部に活用させていただきました。
3 制作活動支援事業	580,000	150,000	498,952	※その他の寄附金の使途における残金は、平成28年度以降に各使途別の事業への使用を検討の上、活用させていただく予定です。
4 子ども教育活動支援事業	50,000	171,000	0	
5 キャリア支援事業	50,000	320,000	0	
6 その他、学生支援の充実を図る事業	135,000	0	135,000	昨年に引き続き、全学共通教育科目履修等のために、学生のキャンパス間移動を円滑にすることを目的とした「東西キャンパス連絡バス」の運行に係る費用の一部として使用させていただきました。
合計	935,000	841,000	693,952	

(単位:円)

- 4) 募金対象別状況 (単位:円)

募金対象	寄附金額
1 卒業生	5,000
2 在学生の保護者	30,000
3 教職員・役員(退職者含む)	360,000
4 その他賛同する個人・法人・団体	540,000
合計	935,000

- 5) 寄附者について
 2015（平成27）年度にご寄附を
 いただいた方々は6名、3法人です。

○寄附者氏名の公表
 <個人>（※50音順 敬称略）
 川村大介、田上義弘、竹本義明、平野春吉、山口加代子
 <法人>
 一般社団法人あおぞら、ナガサキ工業株式会社、富士工管株式会社

- 6) 名古屋芸大生夢サポート募金の詳細はホームページをご覧ください。

URL:
<http://www.nua.ac.jp/yumesupport/>



※Webで検索 **夢サポート募金**

News & ニュース&トピックス
Topics

音楽学部
第43回 卒業演奏会が行われました

2016年3月10日(木)、三井住友海上しらかわホール（名古屋市中区）で本学音楽学部の第43回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとっては大学4年間に学んだ成果発表の場であるとともに、幼少期からの集大成の場ともいえます。音楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会です。本年度は、卒業試験で優秀な成績を修めた演奏学科の学生19名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台に臨みました。

序盤の第1部は電子オルガンからスタートして、フルート、ピアノ、トランペットと続き、6名が出演しました。第2部では、ピアノ、サクソフォーン、バリトン、



1 電子オルガンの演奏
 2 ピアノ演奏
 3 ソプラノ独唱
 4 マリンバの演奏
 5 クラリネットの演奏

チューバ、ピアノ、ソプラノ独唱、マリンバなど7名が出演。第3部は、クラリネットからソプラノ、ピアノ、マリンバ、ピアノと続き、最後のソプラノ独唱までの6名が出

演しました。
 指導教員をはじめ、家族や友人らが客席から見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。

音楽学部
**大学院音楽研究科
 第18回 修了演奏会が行われました**

2016年3月3日(木)、本学大学院音楽研究科の第18回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

大学院修了演奏会は、学部卒業までの教育に加え、より専門性の

高い能力、知識を持って研究し、受動的に学ぶ姿勢から能動的に自ら進んでテーマに取り組んだ成果の発表の場です。

本年度は6名の修了生が、それぞれの個性と研究の融合された作品、演奏を披露し、プロの歌手や演奏家に引けを取らないすばらしい歌唱力や堂々とした演奏に、客席を埋めた聴衆から惜しみない拍手が送られていました。



音楽学部
**第38回 オペラ公演
 「あまんじゃくとうりこひめ」、
 「子供と魔法」が上演されました**

2016年2月26日(金)と27日(土)の両日にわたり、名古屋西文化小劇場（名古屋西區花の木）で、

第38回名古屋芸術大学オペラ公演が行われました。今回の演目は、「あまんじゃくとうりこひめ」「子供と魔法」の2本立てで、日本の昔話の一つの「あまんじゃくとうりこひめ」は林光作曲のもの、「子供と魔法」は、M・ラヴェル作曲のオペラでした。総監督・演

出は本学教授の澤脇達晴が、指揮は山田正文が担当しました。

●「あまんじゃくとうりこひめ」
 瓜から生まれたうりこひめは機織りの上手な美しい娘で、じっさとばっさ夫婦に大切に育てられた。ある日、じっさとばっさは町へ買い物に行くことになり、うりこひ

めは留守番をすることになった。じっさとばっさは人に悪さをするあまんじゃくにはくれぐれも用心するよう伝え、家を後にする。一人で機織りするうりこひめを覗きにやって来たあまんじゃくは、自分も機織りがしたいと願う。続いて、こっそりうりこひめの様子を

見にやって来たとのさんとけらい。二人は、うりこひめをさらおうと企んでいた。それを盗み聞き知ったあまんじゃくは、うりこひめを助けようと先回りする。ふたたびやって来たとのさんとけらいは、中で機織りしているのがうりこひめに扮したあまんじゃくであることはつゆ知らず、あまんじゃくに撃退される。そこへ、買い物から帰って来たじっさとぼっさは、あまんじゃくがいることに驚き、追い払ってしまう。うりこひめが、じっさとぼっさにわけを話すと、あまんじゃくが本当は心優しい鬼であったことを知って、心から感謝する。

●「子供と魔法」

<第1場>

舞台は庭に画した園舎家の一室。7歳になる子供は母親から宿題するようにと言われ、不満を募らせる。そこに母親がおやつを持って入って来るが、宿題がまったく進んでいないことに気づいて子供を叱り、出て行く。腹を立てた子供は、病瀬を起こして暴れ出し、部屋中を滅茶苦茶にする。乱暴をさ

れた家具や動物たちは、傷付けられた苦しみを嘆き、子供に仕返しをしていく。怯えている子供の前に、2匹の猫が現れ、じゃれ合って外に出たので、子供は後を追う。<第2場>

広い庭に出て安心する子供。しかしそれも東の間、庭の生き物たちも子供にいじめられたことを恨み、責め立てる。多くの動物たちでいっぱいとなった庭。動物たちは、次第に子供のことを忘れそれぞれ仲良くし合っている。孤独感に襲われ、母親を求める子供の声に気づいた動物たちや木は、一斉に襲い掛かる。やがて乱闘騒ぎになり、巻き込まれたリスは怪我をし、叫び声を上げて地面に倒れてしまう。子供は、持っていたリボンでリスの傷口を縛り、意識を失う。リスに手当てをした子供に驚いた動物たちは、子供を助けようと母親を呼ぶ。気がついた子供は、「ママ!」と叫び、静かに幕を閉じる。

今回のオペラ公演は、本学教員が音楽指導と振り付けを行い、ピアノ・フルート・パーカッションの



「あまんじゃくとうりこひめ」
 1 じっさとぼっさに用心をするように云われているうりこひめ
 2 機織りをするうりこひめの様子を窺うあまんじゃく
 3 とのさんとけらい
 4 あまんじゃくに撃退されるとのさんとけらい
 5 「あまんじゃくとうりこひめ」の出演者のみなさん
 「子供と魔法」
 6 病瀬を起こして暴れだす子ども
 7 家具や食器に仕返しをされる子ども
 8 多くの動物たちで一杯となった庭
 9 庭の生き物たちに責め立てられる子ども
 10 子供と魔法の出演者の皆さん

演奏は学生が担当し、音楽研究科の大学院生やミュージカルコースの学生の協力により作り上げられ

ています。まさに音楽学部の総力を上げた本年度最後の舞台に相応しいステージとなりました。

音楽学部

オリジナルミュージカル
 「ブロードウェイの魔女たち」が
 上演されました

2016年3月4日(金)、名古屋市青少年文化センターアートピアホールで、音楽学部が主催するミュージカルが上演されました。演目は「ブロードウェイの魔女たち」。

あらすじは、「ショービジネスの街にある伝説のメモリーカットクラブ。朽ち果てたその建物からは“あのはなやかな時代”を想像することは出来ないが、ここは紛れもなく、ショービジネスのスターたちが多くの観客を魅了した場所である。50年の時を越え、その場所に舞い降りたのが3人の

魔女。その昔、メモリーカットクラブのステージに立っていたショーガールだ。魔女たちは廃墟となっているメモリーカットクラブに幻のショーガールたちを呼び戻し、“あのはなやかな時代”の光と影を蘇らせる。“Show is my life”…ショーに人生をかけた女たちの儂いショーが始まる…。というものでした。この不思議な物語の演出・脚本を手がけたのは、本学ミュージカルコース教授の森泉博行です。森泉氏はブロードウェイ作品の演出、シェイクスピア作品のミュージカル化など、多くの創作ミュージカルの作・演出を担当。更には、東宝、松竹、ジャニーズなどのステージを手がけています。このミュージカルでは、



作曲、振付、演奏のすべてを、本学の教員や学生たちが担当しています。ミュージカルコース4年生の卒業公演でもあるこのステージを最高の舞台にしようと、出演キャストをはじめ、舞台スタッフ、演奏を務めた竹内雅一教授率いる名古屋芸術大学ウィンドオーケス

トラの面々も全力で臨みました。カーテンコールでは、ミュージカルコース4年生がステージに立ち、名古屋芸大生としての最後の歌とダンスを披露しました。会場を埋め尽くした観客からは、大きな拍手が出演者やスタッフに送られていました。

人間発達学部

「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が
 開催されました

2016年2月13日(土)、人間発達学部主催による恒例の「春を呼ぶ芸術フェスティバル」が開催されました。

このフェスティバルは、人間発達学部をこの春卒業する4年生と退任される先生方を送り、4月から入学する高校生を歓迎するとともに、地域の子どもたちを楽しん

でいただくことを目的として、毎年、年度末に開催されています。演出は学生実行委員の企画運営によるもので、子どもたちに芸術文化の楽しさを伝えるとともに、一緒に楽しめるように、学生たちが日ごろから授業やサークル、また、個人で研鑽を積んできた成果を発表する場となっています。プログラムの前半は、オープニングが「みんなで歌いましょう」で、良く知られている『ハナミズキ』、『風になる』など3曲が合唱



されました。続いて、水谷映美先生の独唱で、『花』、『青い目の人

形』、『オペラ カルメンより ハバネラ』など4曲が、すばらしい歌

声で熱唱されました。この後は、星野英五先生の迫力のある「ピアノ独奏：ピアノソナタ第3番」。そして学生の「ピアノ演奏」は独奏・連弾・2台ピアノが演奏されました。続いて、小学校教員免許

を取得するために音楽科指導法を履修している2・3年生が山本多恵佳さんの指揮で合唱をしました。前半の最後は星野ゼミの学生による「はらぺこあおむし」で、語り

と映像と楽器（太鼓やパーカッション、タンバリン）などを用いたパフォーマンスでした。

後半は、サークル活動の成果と発表の場で、吹奏楽部（Noise Band）、ダンス部、リズム体操部、和太鼓部などの演奏や演技が、会

場と一体となり楽しく行われ、熱演する学生や教員に会場から大きな拍手が送られていました。

最後に、今期で退官される先生方に花束が贈呈されて終演となりました。

美術学部 デザイン学部
あいちトリエンナーレ2016
参加アーティスト、
ジョアン・モデ氏が来日!
本学学生たちと作品制作
ワークショップを行いました

2016年2月19日(金)、あいちトリエンナーレ2016参加アーティストのジョアン・モデ氏が、今夏の本展で展開する「NETプロジェクト」を、本学西キャンパスで学生たちと共に行いました。

このプロジェクトは、モデ氏が2001年からブラジルのリオで始めたプロジェクトで、広く一般市民から参加者を募り、さまざまな素材と色の紐を結びつけてネットを張り、形作っていくものです。

当日は、美術学部とデザイン学部から14名の学生が参加しました。まず、モデ氏はこのプロジェク

トの主旨について「NETプロジェクトは、いろいろな紐を結びつけてネットを張っていくものですが、結び目は単にモノではなく、人々の人生の中の節目になると思っています。だから、スタジオから外に出て大勢の人でやるプロジェクトとしました。参加者たちが作品を通してお互いに結びつき、繋がることを目指しています。特定の人ではなく、あらゆる人たちが作品作りに参加できる、その多様性がこのプロジェクトの特徴です。今日は、本番の元となる基盤を作ります。本番では多くの人に参加してもらってさらに大きくネットを張ります。今日皆さんが作った結び目を本番で見つけることが出来るかも知れません。日本の公共の場で行うのは初めてですが、その場の環境でネットの形は異なることとなります」と説明しました。



1 「NETプロジェクト」の主旨について語るジョアン・モデ氏(中央)
 2 クローバー広場に車座に座ってジョモ氏の話聞く学生たち(右は本学の須田真弘教授)
 3 ネットに紐を結んで準備をするモデ氏と学生たち
 4 ネット作りに励む学生たち

ジョアン・モデ氏プロフィール
 1961年レゼンデ(ブラジル)生まれ、リオデジャネイロ(ブラジル)拠点。モデ氏の作品は、素材を集積すること、広く一般市民からの積極的な参加に、その多くを委ねている。鑑賞者たちは動きのある作品に立ち寄り、参加することで、ゆったりとした時間へと誘われる。さまざまな素材と色の紐を結びつけていく「NET project」もまた、アーティストの手から離れて、あらゆる参加者の手によって生き物のように育っていく。これまでにサンパウロ、ベルリン、シュトゥットガルト、レンヌなど世界各地の町に設置され、あいちトリエンナーレ2016でも実施予定。
 (あいちトリエンナーレ2016公式Webサイトより抜粋)

また、これまでの「NETプロジェクト」の作品などを紹介しました。この後は、早速、ネット作りの作業に入りました。2月8日に行われた1回目のワークショップで試作されていたネットの、四方の端を周りの木に結びつけ、参加者

が自由に紐を結んでいきました。モデ氏も作業に加わり、みんなで和気あいあいの中でネットを大きくしていきました。こうして、今夏の本展で使用するネットが出来上がり、ワークショップを終了しました。

美術学部 デザイン学部
第43回 卒業制作展
一作品講評会・優秀論文発表会・
映像作品上映会・記念講演会一が
行われました

第43回目を迎えた本学卒業制作展が、3月1日(火)～6日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で開催されました。

1日には愛知県美術館8階のギャラリーホールでオープニングセレモニーが開催され、学生たちの4年間の生活を振り返った映像が流れた後、卒業委員長の荒木弘訓教授による挨拶が行われ、美術・デ

ザイン両学部の学生が代表して作品の紹介をしました。そして、本学学長と来賓によるテープカットが行われ卒業展がスタートしました。

期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストの作家による作品の講評会が実施され、卒業作品をプレゼンテーションした学生に対して、ゲストや担当教員から様々な批評やアドバイスが送られました。また、期間中、美術館ギャラリーのホールでは、展示されている全コースの映像作品上映会(アニメーション、プロモーションビデオ、実写映像の3分野)が実施されました。



1,2 愛知県美術館ギャラリーの卒業会場風景
 3,4 名古屋市民ギャラリー矢田会場の様子
 5,6 本学アート&デザインセンターギャラリーの様子

3月5日(土)には、美術文化コースの優秀卒業論文発表会が愛知芸術文化センター 12階のアートスペースEF室で行われました。また、毎年開催されている記念講演会は、本年度は、作家の高橋源一

郎氏をお迎えし、「芸術家失格」というテーマで講演をしました。卒業制作展とその関連イベントには、一般の来場者を含めて大勢の方々を訪れ、学生たちの思いを込めた作品を鑑賞していました。

Column NUA No.32

“個”が発信する
ネットワーク・メディアの変革

音楽学部教養部会講師 大崎 竜也

東日本大震災から5年の時間が流れた。すでに記憶から薄れゆくには、まだ短すぎるように感じる。この震災でもネットワークとりわけインターネットのもたらした様々な事象はみなさんがご承知の通りである。
 ◇ホームページ(Web site)からブログへ◇
 インターネットがスタートして30余年が経つ。最

初は情報を発信する一手段でしなかったものが、これだけ多くのそして玉石混淆の情報が行き交うメディアになりこれだけ加速度がつくと誰が予想したであろうか。情報は従来のメディアと同じで単一方向であったものが、複雑な方向に変わっていったのもこのメディアの特性であろう。ホームページと言う固定された情報発信の仕方は、ブログと呼ばれる一個人での発信がさらに可能になり、企業・政府・放送局や新聞社、出版社、団体などと個人が同じように並ぶことになった。
 ◇動画配信サイトへの投稿◇
 当然のことながら、ハードウェアの劇進もイン

ターネットが身近で手軽なものになる、求心力になったのは言うまでもない。特に画像を静止画から動画へと手軽に扱えるようになったことは、個人が発信するツールとしてのアドバンテージになったわけである。無料動画サイトへ個人が投稿して、多くの視聴者がそれを楽しみ有益と感じ、さらに話題を呼び、延いては経済効果になりうる潮流が産まれた。
 ◇SNS (social networking service) のもたらす波◇
 TwitterやFacebook、InstagramなどのSNSは、先に述べた個人での情報発信に拍車をかけることになる。個人の「今見た事象」はすぐさま、まさに究極的迅速にインターネットに発信され、共有される。

第20回
修了制作展が行われました

本学大学院美術研究科及びデザイン研究科の第20回修了制作展が、2月23日(火)～28日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻は、絵画研究、造形研究、同時代表現研究、美術文化研究の4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己

の確立と、その表現方法の探究を教育・研究の目標としています。

デザイン研究科デザイン専攻は、学士課程でのデザイン教育を踏まえて、より専門的職能に携わるための知識と技能の習得をめざし、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人材の育成を目標にし、研究領域は、ヴィジュアルデザイン研究、メディアデザイン研究、ライフスタイルデザイン研究、3Dデザイン研究、クラフトデザイン研究の5領域です。

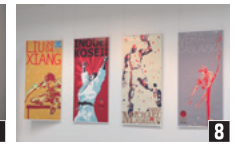
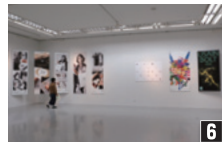
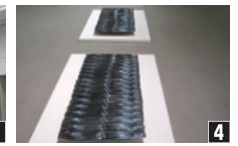
美術・デザインの可能性を信じ、未来に向かって力強く羽ばたこうとする学生たちの作品を、大勢の方が訪れて鑑賞していました。



1 2 3 4 美術研究科美術専攻生の作品



5 6 7 8 デザイン研究科デザイン専攻生の作品



名古屋芸大グループ校特集

滝子幼稚園

「やりたがりの芽を育てる」
～造形表現遊びの充実を通して～

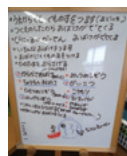
滝子幼稚園では、平成23～26年度にかけて取り組んだカリキュラムの見直しによる戸外・運動遊びの充実により「運動好きな子ども」が育ち、毎日園庭で活発に遊ぶ子どもたちの姿が輝いています。そして平成27年度は、研究の視点を造形表現遊びに移し「やりたがりの芽を育てる」をテーマに掲げ、第1年次として「色・形からの見立てや構成構造遊び」の充実に力を注いできました。夏休みには感性豊かな教員を育てようと名古屋芸大デザイン学部の大野利博先生を講師に招き、構成構造遊びを体験的に学ぶ研修を実施し、想像(創造)力を働かせて創り出す楽しさや難しさなど、園児と同じ気持ちや楽しみを味わってみました。

そして、テーマである「やりたがりの芽を育てる」為には、どのように造形遊びを展開していくべきかと計画を何度も修正しながら実践を重ねてきました。今回は、

27年度の年長組の実践についてお伝えします。運動会を通して自分なりの目標を抱いて本気で跳び箱や鉄棒を頑張り手に入れた自信、またクラスで力と心を合わせて組体操やリレーに取り組んで生まれた「友達と一緒に」という気持ちやパワー、これらを次の作品展へ生かしていくことでより充実した取り組みが出来ると考えました。

そこで、作品展のクラステーマを自分たちで話し合っ決めてきました。この自分で選ぶ、自分達で話し合っ決めることが「やりたがりの芽」を育てる為にとっても重要でした。何日もかけて話し合いやり組は、「ゆり組動物園」ふじ組は、「お化け屋敷」に決定しました。

次に園外保育を企画しました。実体験からの感動や心躍る気持ちを大切にすることで、より自分なりのイメージが膨らみ、友達と共有する喜びも感じられる。造形遊びへの意欲が育つだろうと考え、ゆり組は東山動物園へ、ふじ組は熱田神宮と鶴舞公園へ出掛けました。出掛ける前には、絵本や図鑑を観てイメージを膨らませ自分の作りたいものを予め考え、「ゾウの足ってどの位の太さだろう？」



お化け屋敷構想会議 提灯お化け滑り台 ゆり組動物園さりん ゆり組動物園ワニ

など観てきたいことを話し合い、目的を持って出掛けました。当日はどの子も大興奮で「思ったより太いね」「さりんの首は本当に長いね」などよく見て共感し合う姿がとても印象的でした。

そして帰って早速、作りたいものの設計図を具体的に描き、夢中で廃材をアレコレ組み合わせる意欲的に造形遊びを楽しみました。ゆり組はより本物らしさを追求することを楽しみ、ふじ組は、想像力をフルに発揮し、世界に一つのお化けを創り上げていました。個人作品とグループ作品を創り上げ、「ゆり組動物園」「ふじ組お化け屋敷」が完成しました。ゆり組は餌

をあげたりウンチを掃除したり、キリンやゾウ、ワニなど大きな動物に乗ったりして遊べる動物園を、ふじ組は入口が厳かで神秘的、進む程に工夫があり可愛くて楽しいお化け屋敷でした。子どもたちが何度も話し合いを重ね素敵な世界を表現しました。保育専門学校の木村節治先生にもご協力、ご指導頂きました。今後とも芸大、保専の先生方、どうぞよろしく願い致します。子どもたちが夢中で目を輝かせて取り組む素敵な経験となりました。

平成28年度も引き続き「やりたがりの芽を育てる」造形表現遊びの充実に取り組んでいきます。

これは、強力な機動力を保持している、放送局や新聞社、出版社にも出来なかつた芸当である。

同時に、間違つた情報や、デマ、風評が「信頼の置ける情報」より影響力を持つてしまうことが起こつてしまつている。

最初述べた震災の直後、Twitterで投げられた情報は、被災地への物資の供給や流通の偏りを招いてしまったこともSNSの側面と言えよう。

◇メモ代わりなのか？ 備忘録なのか？ 日記なのか？◇

Twitterは特にそうであるが、個人が発すれば、それは「個人の」である。

文字通り「呟き」なのである。ネットワークに残る、

メモ書きである。読み返せば、過去の時間と共に、自分の手元に瞬時に降りてくる(←手前味噌であるが良い表現)。ネットワークに繋がっている場所であれば、「どこでも、いつでも」である。

◇飛碟(つぶて)を共有する世界◇

前項で述べたように、「個人の情報」が、一つの方向ではなく、他者が「共有する」ことにより、大きな情報となり、世論や国家を動かすmovementになるのが、インターネットと言うメディアの新たな潮流である。ほんの小さな飛碟(つぶて)が巨岩となって我々の前に押し寄せる、それがインターネットの一つの側面である。これを操る世代は、時代を嗅ぎ



取るmind(感性)の変化をももたらした。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の記憶をここに留めておきます。 #Pray for JAPAN.

マスター to アーティスト

【第32回】

〈 好みを
突き詰めて 〉



1989年 ステラのスタジオ

吉本作次 美術学部 教授

(よしもと さくじ)

- 1959 岐阜県生まれ
- 1984 名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業
- 1986 渡米、ニューヨークに5ヶ月間滞在、制作
- 1989 ニューヨークで個展、後にヨーロッパを初めて訪問する
- 1995 名古屋文化振興事業新進芸術家海外研修の助成を受け
ニューヨークを訪問
- 1996 平成8年度文化庁インターシップ研修生として助成を受ける
- 1997 名古屋市芸術奨励賞受賞

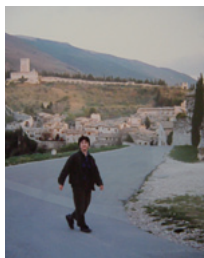
三重と愛知を拠点に制作。現在、愛知県日進市在住
名古屋芸術大学美術学部洋画2コース教授

えば、過去の歴史がじつは歴史化された歴史でしかなく、絵画を絵画たらしめている色、モチーフ、線といった基本要素をつぶさに確認することで歴史を問い直し、未来の絵画の可能性を見いだそうという行為といえないだろうか。一つの講義で使用する絵画が200〜300枚というから、15回の講義全体では3,000枚以上の絵を用いることになる。講義を行うためには膨大な見識と労力が必要になることはいうまでもない。絵画の面白さがもう一つわからないという美術以外の学生にも楽しめる講義なのではないだろうか。絵画の見方がわかるようになるに違いない。絵を準備するだけでも恐ろしく手間がかかっている、贅沢な講義なのだ。

翻って氏の作品をじっくりと眺めてみる。なるほど、さまざまな絵画（洋画だけではない！）がそこそこに見て取れる。「例えば、シャイム・スーティン入ってます、アルブレヒト・アルトドルファー入ってます、広重の構図使ってます、伴大納言絵巻の炎の感じも入れて、ルーベンスやレンブラントのグレージング技法も入れています、大体、この1枚に10人くらいは入っているかな、みたいな感じのことはよくあります」 自らの作品を



1989年 ニューヨーク ジョッドソノウ
エアハウス 個展会場の屋上にて



1989年 イタリア アッシジ ラッコ
近く



個展前は必ず点滴を受けること
になる

「90分の間に、200〜300枚程の絵を見せてしゃべり通すんです」氏が熱を入れて取り組んでいる「絵画論」という講義である。「制作者として、画家として絵のここを見ているんだということを説明しているんです。この画家がすごいといわれるのは、この絵の中のこのポイントだとか、どうでもよさそうに見えるこの線なんだ、とかです。その部分をクローズアップして見せていって、そしてこの絵と匹敵するレベルの絵はこれなんだ、と二枚を並べて、その違いを何度も比較して見ていきます。するとそのうちに、どちらが名作でどちらが迷作なのか、だんだん見えてくるようになる。これまで遠近法であったり、色彩論なども入れたりしてきましたが、今年は筆先に特化して、ストロークだけで15回の講座をやってみようとしています」 絵画論で引き合いに出される絵画は、洋画の枠に収まるどころか、日本画、古い絵巻物、現代のイラスト・マンガ、中国の書、和歌の続け文字……、おおよそ考えつく限りの絵であり書であり、線である。大胆で非常に興味深い試みである。作品の歴史性や時代背景から作家の精神性について論ずる、いわゆる美術評論とは大きく異なる見方の提示で



ある。学生諸氏なら課題に向かうとき、出された課題とは別にもう一つ自分だけの個人的な裏テーマを心に抱えつつ制作に当たる様なことを経験してはいないだろうか。絵画に限らず“もの”を創作している方々ならば、たとえそれが音楽の演奏であっても、個人的な試みを持って制作に望むということを経験していると思う。氏の試みは、作品が抱え解決しようとする問題だけを見るのではなく、裏テーマともいえる作家の個人的なトライアルや無意識までを子細に観察し、そこから美の普遍性を導き出そうという行為に見える。実際に講義を受講したわけでもないのですが、もしかかもしれないが、この方法は、柄谷行人が「日本近代文学の起源」で行った検討方法と同じもののように思われる。既存の美術史が手法として用いている要素とは異なった要素と方法を使い、美の存在と評価方法を正そうと取り組んでいるのではないかと柄谷風にい



サボナローラ 1985



Fertility 1989



1980年 初期キース



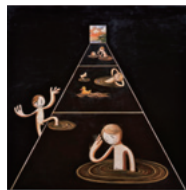
1989年 イタリア クレモナ
通りすがりのオジさんと



奇妙な果実 1986



浪花節 2006



銭湯 1995



三本の木 2014



2013年 オランダ ロッテル
ダム レンブラント 接写中

花を生けても「道」、お茶を飲んでも「道」。何にでも「道」をつけてしまうところが我々日本人の特異性。逆にいえば生き残っていくだけの魅力も生まれるのかな。



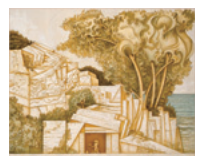
アクタイオンとアルテミス 2012



セザンヌの石切り場 2014



観雲亭 2015



南仏の聖人 2009



スパイラルホール 1986



川と鳥 1985



1989年 ギャラリー
オーナーの息子さんと
添い寝



2013年 ベルギー
ブリュッセル ベルギー
ビール

個展

- 1984 セキギャラリー、名古屋
- 1985 アキライケダギャラリー、名古屋
- 1987 アキライケダギャラリー、東京
- 1989 ジャドソンウエアハウス、ニューヨーク
- 2001 コオジオグラギャラリー、名古屋
- 2002 ギャラリー OH、一宮
- 2005 三重県立美術館、津、三重
- 2007 アート&デザインセンター BEギャラリー、名古屋
- 2008-15 ケンジタキギャラリー 名古屋 & 東京

グループ展

- 1983 「五つの発熱'83」三重県立美術館県民ギャラリー、津、三重 1985 「五つの発熱' 85 in 横浜」神奈川県民ホール、横浜
- 1986 「アートインフロント' 86 - 世紀末芸術の最前線」スパイラルガーデン、東京
- 「第6回 ハラアニュアル」原美術館、東京
- 1987 「絵画1977-1987」国立国際美術館、大阪
- 1989 「現代絵画の展望・祝福された絵画(第19回現代日本美術展・企画部門)」東京都美術館(京都市美術館、高松市美術館、船橋・西武美術館、北九州市立美術館、広島市現代美術館を巡回)
- 1996 「VOCA展'96」上野の森美術館、東京
- 1997 「眼差しのゆくえ-現代美術のポジション1997」名古屋美術館、名古屋

- 2001 「松岡徹+吉本作次 AFTER REMISEN」名古屋芸術大学アート&デザインセンター、西春日井郡、愛知
- 2006 「Next Station - 次の美術駅へ」名古屋市民ギャラリー一矢田、名古屋
- 2007 「City_net Asia 2007」ソウル市美術館、ソウル
- 2008 「Masked Portrait」マリアンヌ・ボースキーギャラリー、ニューヨーク
- 2009-10 「ARTのメリーゴーランド」岐阜県美術館、岐阜
- 2011 「桃源万歳! 東アジア理想郷の系譜」岡崎市美術博物館、岡崎
- 2012 「魔術/美術 幻視の技術と内なる異界」愛知県美術館、名古屋

分析的に説明すると、このような説明になってしまい聴く人ががっかりさせてしまうと笑わせるが、絵に宿っている得も言われぬ芳醇さの理由を端的に言い表しているのではないだろうか。講義が研究成果の発表の場ならば、作品はさしずめ研究の実践の場である。

他の作品の影響が見えると模倣、つまり「パクリ」といわれてしまうのが昨今である。過分にオリジナリティを要求する世の風潮はいかなものかと思うが、オリジナリティについて伺ってみた。「養老孟司さんの本の中に、個性というけれど似ているからわかるのであって本当のオリジナリティというのは共感を得られない全く他人に理解できない状態だ、とあります。そのとおりだと思います。それを踏まえた上でオリジナリティというのは、共感できるレベルで、しかしながら他のものをパクってきたのではなく、その人が自

己責任で作りに上げていった好みの世界といえるのではないのでしょうか。そうであれば、結果的にピカソに似ていてもどこかセザンヌに似ていたとしても、それはオリジナリティがあるといえるのではないかと思います。誰にも似ないゼロからのオリジナリティを学生に求めようとする美術大学とか社会の風潮は大きな間違いではないかと思います。ピカソの展覧会を見ても、どれだけ影響を受けているというぐらいいろいろな人の影響が入っています。そこからだんだんとピカソに迫り着くのに、20代の若者にあなたのオリジナル、世界で一つだけのものを作りなさいといったところで、誰にも似ていない、けれどつまらないものができるだけじゃないですか。人文科学的な観点でいえば、ニュートンの巨人の肩の上に乗っているというのと同じように、今までやってきた人のものを見て、知って、その上に1点だけ自分の新しいものを加える

ことができたとしたら、それがオリジナリティだと思います」氏はこうもいう。「2016年の今を生きる画家は、歴史上の画家の中で最もたくさんの絵を見ることができます。過去を知って、そこから一周して新しいものが生み出せるのではないのでしょうか。こんな状況の中で何も見ないでオリジナリティを追求するというやり方はどうかと思いますよ」

「絵画論の最初に、絵画とは作る人間の好み煎じ詰めていくものだと、学生たちに説明します。主観なんて個人的にバラバラなものです、それを磨きあげて誰からも文句をいわれないようにして、あんたの主観はすごいと納得させることができれば、それが表現になるのではないのでしょうか。私はそう思っています」自分の「好み」にすべてを賭ける。そこには、単なる模倣や剽窃といったものを寄せ付ける生ぬるさは微塵もない。



春のオープンキャンパス (音楽学部・人間発達学部) が開催されました

2016年3月5日(土)、本学東キャンパスで春のオープンキャンパス(音楽学部・人間発達学部)が開催されました。

1号館1階に設置された受付には、午前9時半過ぎから高校生やそのご家族など大勢が訪れ、アンケート用紙を記入したり、大学資料や本日のスケジュール・ランチ券などを受け取り、手続きを済ませました。玄関ホールでは、金管五重奏によるウエルカムコンサートが行われオープンキャンパスがスタートしました。(詳細は本学ホームページをご参照ください)

次回のオープンキャンパスは6月11日(土)に全学部一斉に開催されます。

2016年度 オープンキャンパス日程

2016年	
■ 6月11日(土) 全学部	10:00~16:00
■ 7月16日(土) 人間発達学部	10:00~13:30
■ 7月17日(日) 美術学部・デザイン学部	10:00~16:00
■ 8月20日(土) 人間発達学部	10:00~13:30
■ 9月24日(土) 全学部	10:00~16:00
■ 10月30日(日) 全学部	ミニオープンキャンパス 芸大祭と同時開催
2017年	
■ 3月 4日(土) 音楽学部・人間発達学部	10:00~16:00

アート&デザインセンター 2016年度展覧会スケジュール(予定)

4/ 1(金)~ 4/13(水)	2015年度デザイン学部レヴェー選抜展
4/15(金)~ 4/20(水)	「書道アート展 3」 ~書のアブストラクション(仮)
4/22(金)~ 4/27(水)	写真部presents フィルム展
4/22(金)~ 4/27(水)	林あかり 個展 「まばゆいものたち」
5/ 6(金)~ 5/11(水)	高校生のチカラ~芸術への招待
5/13(金)~ 5/18(水)	Peace nine 2016
5/13(金)~ 5/18(水)	アートクリエイターコース・コレクション展
5/20(金)~ 5/25(水)	名古屋芸術大学 美術・デザイン学部 OB・OG展2016
5/27(金)~ 6/ 1(水)	PLAYGROND イラストレーションコース3・4年生作品展
6/ 3(金)~ 6/ 8(水)	From Denmark 2016 展
6/10(金)~ 6/15(水)	名古屋芸術大学教員展
6/10(金)~ 6/15(水)	落合先生のひきだし -ビジュアルデザインからおもちゃまで
6/17(金)~ 6/22(水)	プレッツ展
6/24(金)~ 6/29(水)	名古屋芸術大学大学院 洋画制作2016
7/ 1(金)~ 7/ 6(水)	スペースデザインコース展(くねるところにすむところ展)
7/ 1(金)~ 7/ 6(水)	大学院 コミュニケーションアート&デザイン演習発表展
7/ 1(金)~ 7/ 6(水)	息の発見
7/ 8(金)~ 7/13(水)	2016年度前期留学生作品展
7/15(金)~ 7/27(水)	2016年度アート&デザインセンター企画展 「版の方法論:50×50」展
7/29(金)~ 8/10(水)	素材展(クラブブロック前期制作展)
9/23(金)~ 9/28(水)	第29回バスケット展/佃真弓カゴによる世界との交流/ 川瀬三重子のさざめく形
9/30(金)~10/ 5(水)	彫刻展(アートクリエイターコース・彫刻クラス)
10/ 7(金)~10/12(水)	アール・ラジョ2016&大学院同時代表現制作展(仮)
10/14(金)~10/19(水)	洋画1コース3・4年展
10/21(金)~11/ 2(水)	2016年度アート&デザインセンター企画展 絵本作家 三浦太郎 絵本作家の仕事(仮)
11/ 4(金)~11/ 9(水)	「幼稚園児たちのゲイジツ 2016」展
11/ 4(金)~11/ 9(水)	「Hand Hospeace:医療と美術 2016」
11/11(金)~11/16(水)	MCDデパートメント
11/18(金)~11/23(水)	版の神髄:マルメから 2016展
11/25(金)~11/30(水)	メディアデザインコース展
12/ 2(金)~12/ 7(水)	洋画2コース2年生展覧会
12/ 9(金)~12/14(水)	プライトン大学との国際交流20周年記念事業展
12/ 9(金)~12/14(水)	2016年度後期留学生作品展
12/16(金)~12/21(水)	こどもの空間 絵本と家具
12/16(金)~12/21(水)	洋画2コース 4年 三人展
12/16(金)~12/21(水)	地場産業の布展(仮)
1/ 6(金)~ 1/11(水)	ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)
1/13(金)~ 1/18(水)	日本画3年コース展
1/13(金)~ 1/18(水)	EENAC展(洋画)
2/21(火)~ 2/26(日)	第44回名古屋芸術大学卒業制作展



※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
[入場無料] どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325

Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館



「名古屋芸大グループ通信」
ウェブサイト



発行: 名古屋芸術大学
企画・編集: 全学広報誌編集委員会
デザイン・協力: くまな工房一社
印刷: 株式会社クイックス
発行日: 2016年4月28日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市鹿之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を
再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。